

小学校 実践例 小 1

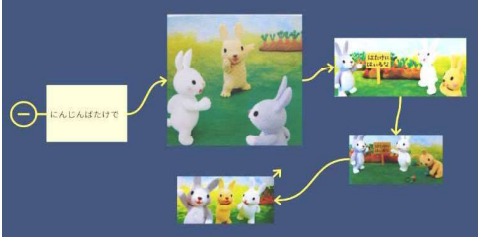
教材名
内容項目

「にんじんばたけで」
善悪の判断、自律、自由と責任

ねらい

してはいけないことを「みんながやっているから自分もしてもよい」と考えることの間違いに気づき、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。

タブレットを活用した授業の流れ

	主な学習活動	タブレットの活用場面
導入	1 自分の経験を振り返る。 2 本時の学習のめあてをつかむ。 よいことをするには、どのような気持ちがあればいいのかな。	ロイロノート(提出箱) 教師の経験を聞き、分かっているけどできなかったことがあるかを振り返り、色カードを使って表す。 にたけいけんがある にたけいけんはない
展開	3 教材文を読み、三匹のうさぎの心情について話し合う。 (1) たくさんのにんじんを見つけた三匹の気持ちを考える。 ・うれしい。 ・みんなで食べよう。 (2) にんじんの食べかすを見つけたときの三匹の様子から、役割演技を行いどのような気持ちになるかを考える。 ・みんなも食べているから、ぼくたちも食べよう。 ・食べちゃいけないよ。 ・だれかがいっしょうけんめい育てたにんじんだよ。 (3) 三匹が元気に野原を走っていったときの気持ちを考える。 ・だれかがしたからといって、いけないことをまねするのはよくないね。 ・正しいことをすると気持ちがいいね。 4 よいことができたときの自分の気持ちを振り返る。	ロイロノート(カメラ機能) 教科書の絵を撮影し、テレビに映し出しながらかみ聞かせを行う。  ロイロノート(カード) テレビにカードを示すことで、よいことができたときの自分の経験を振り返ったり、そのときの気持ちを思い起こしたりしやすいようにする。 ・ろうか ・よりみち ・よこはら ・スリッパ ・かたづけ ・てあそび 手遊びをしようとしたけど、しなかった。心がすっきりした。 よりみちそうになったけど、がまんできた。
終末	5 教師の経験談を聞く。 6 授業を振り返る。	・ 教師の経験談を聞き、実践への意欲を高める。 ・ 本時を振り返り、ワークシートに記入する。



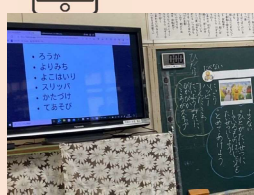
ロイロノート(提出箱)



色カードを使って自分の経験を振り返ることで、問題意識をもつことができた。また、子どもたちが経験を語る手立てとなる。
教師も子どもたちの実態を把握しやすい。



ロイロノート(テキストカード)



カードを提示しておくことで、できた経験やそのときの気持ちを振り返りやすくなった。配信や送る機能でそれぞれの画面に映すと、より確かめやすい。

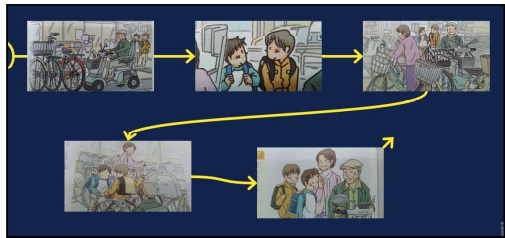
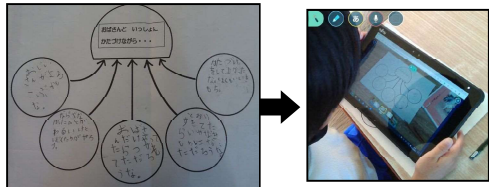
小学校 実践例 小1

教材名 「学校のかえりみち」
内容項目 親切、思いやり

ねらい

困っている人を助けることは、相手にとってはもちろんありがたいことであるが、その喜びを感じる自分にも大きな喜びであることに気づき、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てる。

タブレットを活用した授業の流れ

	主な学習活動	タブレットの活用場面
導入	1 身近などんな人たちに親切にしてきたか、自分の経験を振り返る。 2 本時の学習のめあてをつかむ。 しんせつをしたとき されたときの きもちを かんがえよう。	ロイロノート（カメラ機能） 教科書の絵を撮影して写真として取り込み、ロイロノート上でスライドショーにする。それをテレビに大きく映し出しながら、読み聞かせを行う。 
展開	3 教材文の読み聞かせを聞き、主人公の気持ちを中心に話し合う。 読み聞かせの挿絵 (1) 「どうしようか。」と顔を見合わせたゆうじとまことは、どんなことを考えているのでしょうか。 (2) ゆうじとまことは、どんなことを考えながら自転車を片付けはじめたのでしょうか。 ワークシート（クラゲチャート）に考えを書き、提出。	ロイロノート（カメラ機能、提出箱） ワークシートや心情円を写真で撮り、それを提出箱に提出させる。その後全体で共有し主人公の心情を発表させる。 ワークシートに考えを記入 カメラ機能で撮影後、提出 
終末	4 授業を振り返る。 ・ しんせつをすると、自分も相手も気持ちがいいな。 これまでの自分の生活を振り返り、今後の自分の生活に生かす。	ロイロノート（カメラ機能、提出箱） 提出箱に提出された心情円を比較し、主人公の心情の変化を確かめ合う。変化を比較させ、これからの生活に生かしたいことを発表させる。 



ロイロノート（提出箱）



自分と友達の考えを比較し、物事を多面的・多角的に考えるきっかけづくりをするために「カメラ機能、提出箱」を活用した。短い時間で多様な考えに触れることができた。



ロイロノート（カメラ機能）

カメラ機能は、文字の入力が必要ないため、タイピングや文字記入の能力にとらわれずに活用することができた。特に、低学年においては効果的であり、ICT 端末活用の入門として最適である。



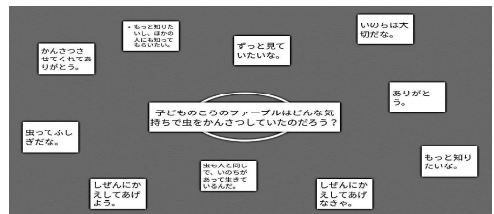
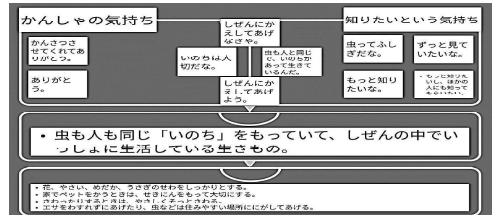
小学校 実践例 小2

教材名「虫が 大すき — アンリ・ファール」
内容項目 自然愛護

ねらい

アンリ・ファールの昆虫への思いについて考えることを通して、身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接しようとする心情を育てる。

タブレットを活用した授業の流れ

	主な学習活動	タブレットの活用場面
導入	1 好きな生き物は何か、自分を振り返る。	 ロイロノートの提出箱に自分の好きな生き物を提出し、好きなところや好きな理由などを出し合うことで、自分の経験と重ね合わせる視点をもたせる。
	2 本時のめあてをつかむ。 ファールはどんな気持ちで虫とせっていたのだろうか。	
展開	3 教材文を読み、主人公の心情について話し合う。 ○ 虫を観察し続けたファールは、どんな気持ちを持っていたのか発表させ、子どもの頃のファールの心情を把握する。 ・ ふしぎだな。 ・ みんなに教えたいな。 ・ ありがとう。	 共有ノート機能を使い、ウェビングシート上に、問いへの考えをグループごとに提出させる。 
	4 心情を整理し、自然愛護について考える。 ○ 出た意見をグルーピングし、生き物と接する際にどんなことが大切なのかを全体で分析していく。 ・ ただ好きだから観察するというだけでなく、命を大切にすること、やさしさも大切なことなんだ。	 ツール切り替えを行い、出されたカードを全体共有画面で移動させ、発表された意見のまとめを教師が入力していく。 
終末	5 自分たちの生活を振り返る。	 感想や本文内容について感じたことを共有ノートで振り返る。
	6 本時を振り返る。	



シンキングツール（情報分析）



集めた情報を分類し、そこから価値への気づきを引き出した。構造的に意見を整理することで、より深く考えることができる。



共有ノート（振り返り）



共有ノートで振り返りを行い気付いたことを発表させることで意見交換を活発にすることができ、時間短縮にも有効である。

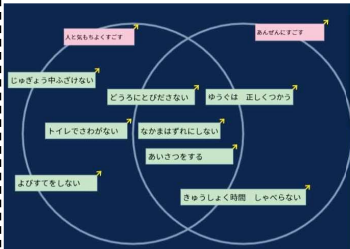
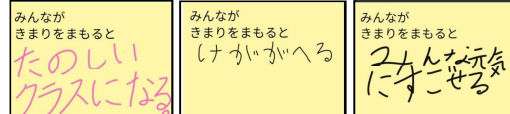
小学校 実践例 小2

教材名 「きまりのない学校」
内容項目 規則の尊重

ねらい

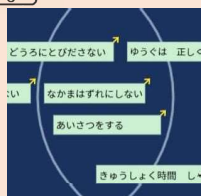
きまりがもつ意味について考えることを通して、みんなが使う物を大切にし、約束やきまりを守ろうとする態度を養う。

タブレットを活用した授業の流れ

	主な学習活動	タブレットの活用場面
導入	1 きまりについて、これまでの生活を振り返る。 2 本時のめあてをつかむ。 きまりはどうしてひつようなのだろうか。	きまりを守ることができるかアンケート機能で生活を振り返ることができるようにする。 ロイロノート（アンケート機能） 
展開	3 教材文を読み、主人公の心情について話し合う。 ○ 目になみだがたまったあきらは、どんなことを考えたでしょう。 ・ きまりはあったほうがいいな。 ・ きまりがある理由がわかった。 4 きまりを分類し、きまりの意義について考える。 ・ みんなが気持ちよく過ごすためにあるきまりが多いんだな。	ロイロノート（シンキングツール「ベン図」）  「安全に過ごすため」「みんなが気持ちよく過ごすため」という項目に分類させる。
終末	5 自分たちの生活を振り返る。 ○ きまりを守ったときは、どんな気持ちで過ごせるだろうか。 ・ みんな元気に過ごせる。 ・ 楽しいクラスになる。 6 本時を振り返る。	自分の振り返りをロイロノートのカードに書き提出させ、交流できるようにする。 ロイロノート（カード機能） 



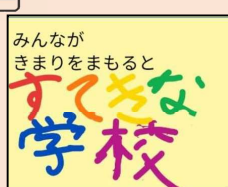
シンキングツール（ベン図）



シンキングツール（ベン図）を活用することで、様々なきまりの意義を多面的・多角的に考えることにつながった。また、ベン図に視覚化することで、共通している意義を共有しやすかった。



ロイロノート（カード機能）



本時の学習で再構成された道徳的価値を基にして、「みんながきまりを守ると○○○（どうなる）」をカード機能に書かせて提出させた。それぞれの考えを比較・共有するためにとっても有効であった。